

第351回

日本泌尿器科学会新潟地方会

《プログラム》

日時：平成21年9月12日（土）午後3時00分

会場：ホテルニューオータニ長岡2階『柏の間』

長岡市台町2丁目8-35 0258-37-1111

次回 第352回新潟地方会予告

日時：平成21年12月5日（土）午後3時

会場：未定

演題申込期限：平成21年11月6日（金）

※ すべてPCのみの発表とさせていただきます。

※ 口演時間は、7分。討論2分

日本泌尿器科学会会員証を必ずご持参下さい。

951-8510 新潟市中央区旭町通1-757

新潟大学医学部泌尿器科学教室内

日本泌尿器科学会新潟地方会

TEL：025（227）2289／FAX：025（227）0784

会長 高橋 公太

1. 当院で行なった献腎移植の4例

立川総合病院泌尿器科¹⁾、同 腎臓内科²⁾、同 脳外科³⁾
新潟大学大学院 腎泌尿器病態学分野⁴⁾
鳥羽智貴¹⁾、諏訪通博¹⁾、信下智弘¹⁾、有本直樹¹⁾、上原 徹¹⁾、倅田亮平、
渡邊資夫²⁾、青柳竜治²⁾、阿部博史³⁾、斎藤和英⁴⁾、西山 勉⁴⁾、高橋公太⁴⁾

当院では、1985年2月14日に第1例目の腎移植が行われて以来、1997年1月16日までに45例の腎移植が行われてきた。また、新潟県上中越地区や富山県在住で東京女子医大、新潟大学で腎移植を行なった患者もフォローしており、現在53名の腎移植患者が通院中である。1997年から腎移植を中断していたが、2004年から腎移植再開に向けた準備を開始し、2006年2月14日に9年ぶりに献腎移植を行った。腎移植再開後に4例の献腎移植を行なっているが、2例は当院内でドナー腎採取から献腎移植までを行なった。移植後の経過も全例で良好である。腎移植再開までの準備について、また、それぞれの症例の経過について報告したい。

2. 後腹膜に発生した solitary fibrous tumor の1例

新潟労災病院 泌尿器科¹⁾、同 病理科²⁾
田所 央¹⁾、小池 宏¹⁾、川口 誠²⁾

症例は96歳の女性。主訴は右腰背部痛で、高血圧・糖尿病・軽度の腎機能障害のために当院内科を通院中に、CTで偶然に右後腹膜腔を占拠する大きな腫瘍が見つかった。既往歴としては子宮体癌にて子宮全摘後であった。腎嚢胞と考えて外来で経過観察を行っていたが、痛みの改善なく食欲も低下してきたため、精査目的に入院した。局所麻酔下に腎嚢胞と考えていた腫瘍を穿刺したが、内容液を吸引できず造影剤を注入することもできなかった。この所見から後腹膜腫瘍と判断し、針生検を施行した。病理組織学診断では solitary fibrous tumor であった。後腹膜に発生した solitary fibrous tumor の1例を経験したので若干の文献的考察を加えて報告する。

3. 尿路上皮癌に対するGC療法後のメンテナンスの化学療法は必要か？

長岡赤十字病院 泌尿器科
石崎文雄 鈴木一也 小林和博 米山健志 森下英夫

転移を有する尿路上皮癌に対するGEM+CDDPによる化学療法（GC療法）はMVAC療法と有効性は同等であることが報告されている。またGC療法は外来化学療法をベースとし患者のQOLにも寄与することを昨年の地方会で報告した。しかし、GC療法をいつまで行うかは明確になっていないのが現状である。またGC療法を中止した後に転移巣が増大することもしばしば経験する。当院でGC療法後に増悪した症例・GC療法後にメンテナンスの化学療法を行っている症例を当日供覧する。

4. Retroperitoneoscopic nephrectomy using GelPort[®] as the main access platform with muscle-splitting.

新潟大学医歯学総合病院泌尿器科

金子公亮、安楽 力、笠原 隆、新井 啓、西山 勉、高橋公太

Purpose: Retroperitoneoscopic nephrectomy using GelPort[®] as the main access platform with muscle-splitting was performed in April 2009. We present the initial clinical experience and technique on movie. Materials and Methods: A 6-cm transverse skin incision was made just below the tip of the 12th rib. A GelPort[®] was inserted into the incision. Three trocars (12 mm, 12 mm, and 5 mm) were placed through the main access port, and one trocar outside. The kidney was mobilized in the standard fashion, using standard laparoscopic instrumentation. Controlling the renal artery with Hem-o-lok[™] and the renal vein with MULTIFIRE ENDO TA[™] 30, the specimen was manipulated into a laparoscopic retrieval bag and removed intact. Hemostasis was confirmed, the 6-cm incision was closed. Results: Mean operative time was 257 min (160-400) without complications. Conclusions: Our procedure is technically feasible, offers superior cosmesis and pain control.

5. 当院におけるソラフェニブの治療経験

新潟県立中央病院泌尿器科

糸井俊之、武田啓介、片桐明義

症例は男性2例、女性1例、年齢は51-80歳（平均年齢69歳）。肺転移1例、肺転移+肝転移1例、リンパ節転移+局所再発1例。全例腎摘出術を施行しており、先行治療としてIFN α 療法中心としたサイトカイン療法を行っている。治療効果はPR1例、PD2例。副作用は全例に手足症候群を認め1例に高血圧を認めた。少数例ではあるが症例それぞれの経過につき報告する。

6. 新潟大学医歯学総合病院における前立腺癌高線量率組織内照射療法の初期経験

新潟大学医歯学総合病院 泌尿器科¹⁾、同 放射線科¹⁾
笠原 隆¹⁾、西山 勉¹⁾、新井 啓¹⁾、原 昇¹⁾、
谷川俊貴¹⁾、高橋公太¹⁾、笹本龍太²⁾、丸山克也²⁾

当院では、2009年6月より限局性前立腺癌に対する Ir-192 を用いた高線量率前立腺組織内照射療法 (HDR-brachytherapy) を開始した。主に中〜高リスク群を対象とし、前立腺部への外照射療法に引き続いて HDR-brachytherapy を行っている。治療プロトコル、アプリーター穿刺や組織内照射の実際について紹介する。さらに、初期経験から浮き彫りになった課題についても触れる予定である。

7. ヨウ素 125 シード線源による前立腺癌永久挿入密封小線源治療

—新規導入から 35 例の治療経験—

新潟大学医歯学総合病院泌尿器科¹⁾、同 放射線科²⁾、新潟市民病院放射線科³⁾
新井 啓¹⁾、池田正博¹⁾、笠原 隆¹⁾、原 昇¹⁾、谷川俊貴¹⁾、西山 勉¹⁾、
高橋公太¹⁾、川口 宏²⁾、土田恵美子³⁾

2003年9月に本邦でヨウ素 125 シード線源による前立腺癌永久挿入密封小線源治療が開始され、全国各施設で普及が広がっている。我々は本治療法を 2007年8月24日に開始し、2009年8月22日までに 38 例を経験した。今回は術後評価の可能な 35 例についてご報告したい。

8. ビカルタミド使用の MAB で PSA 再燃した症例の検討

新潟県立がんセンター新潟病院泌尿器科

斎藤俊弘 若月俊二 北村康男 小松原秀一

当科でビカルタミド使用の MAB で治療した Stage C, D 前立腺癌 215 例中、PSA 再燃した 90 例の経過を検討した。AWS を期待して休薬した 40 例中 4 例 (10.0%) で PSA 値が 50% 以上低下した。フルタミドへの交替療法を行った 37 例中 18 例 (48.6%) で PSA 値が 50% 以上低下した。二次内分泌療法の効果があった症例は疾患特異的 5 年生存率が 55.0% で、無効だった症例より有意に良好であった。

9. 副腎の異所性甲状腺と Cushing 腺腫を併発した 1 例

厚生連刈羽郡総合病院泌尿器科¹⁾、同内科²⁾、
新潟大学大学院腎泌尿器病態学分野³⁾、立川総合病院泌尿器科⁴⁾、
横浜労災病院内科⁵⁾、東北大学大学院病理診断学分野⁶⁾
羽入修吾¹⁾、安藤 崇¹⁾、片桐 尚²⁾、新井 啓³⁾、信下智弘⁴⁾、
大村昌夫⁵⁾、笹野公伸⁶⁾

57歳女性。55歳から高血圧。2006年腰痛で近医受診。X Pで左上腹部に石灰化陰影があり、C Tで左副腎腫瘍の疑い。精査で①左副腎ホルモン非産生性石灰化腫瘍＋②左副腎のコルチゾール産生非石灰化腺腫＋③特発性アルドステロン症(IHA)の疑い。腹腔鏡下に左副腎摘除術を施行。病理診断は皮質腺腫と異所性甲状腺組織でありIHAの所見は認めなかった。副腎の異所性甲状腺は世界で4例の報告例があり、自験例は5例目である。

10. 前立腺がん検診の精度管理—検診受診者と地域がん登録との照合の試み

新潟県地域がん登録室

小松原秀一、内藤みち子、青山美奈子、小越和栄

平成 16 年度の検診とがん登録とを照合した。【方法】集団検診で毎年検診を実施している地域で、受診者の同意があり、氏名情報が得られた地域について。1次検診受診者は 12,886、要精検者数 1,151、精検受診者数 930、前立腺がん数 184。【結果】がん登録は 102、うち 4名は PSA 基準値以下（偽陰性）であった。基準値以上での照合の不一致は外来経過観察による。【結論】検診結果の報告、地域がん登録への一層のご協力をお願いしたい。

[休 憩 16 : 30 ~ 16 : 50]

サテライトセミナー

日 時：平成21年9月12日（土）

16時50分～18時00分

会 場：ホテルニューオータニ長岡 2階『柏の間』

16：50～17：00

製品紹介

『プロスタールに関する最近の話題』

あすか製薬(株) 学術情報マネジャー 高橋政行

17：00～18：00

座長 新潟大学大学院 腎泌尿器病態学分野

教授 高橋 公太 先生

「睡眠障害と生活習慣病」

講師 愛知医科大学医学部 睡眠科

教授 塩見 利明 先生

共催 日本泌尿器科学会新潟地方会

あすか製薬株式会社

サテライトセミナー終了後、2階「雪椿の間」にて懇親会となります。

【地方会参加単位登録 IT 化実施について】

第351回日泌新潟地方会より登録をバーコードリーダーで読取りを実施いたします。

日本泌尿器科学会会員証を必ずご持参下さい。